

所属・氏名（看護学部 看護学科 氏名 飯田加寿子 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Mothers' process parenting a child with chromosomal structural abnormalities	共著	2021 年 4 月	Japan journal of nursing science 18(2) https://doi.org/10.1111/jjns.12387	染色体構造異常のある子どもをもつ母親が情報の少ない中で育児を行うプロセスを探ることを目的に、16 名の母親に半構成的面接調査を実施した。その結果、個々のニーズに見合う継続的な支援体制と、母親の自尊感情を高めるよう支援し生活に根付いた情報を蓄積し整備していく事の示唆を得た。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。Saeko Kutsunugi, Kumiko Tsujino, Kyoko Murakami, Kazuko Iida, Tsugiko Gima, Yumiko Endo, Yoko Tamashiro, Teresa Stone, Jun Kobayashi,
2 (学術論文) 高年妊婦の妊娠・出生前検査 の情報選択に関する研究	共著	2020 年 9 月	日本遺伝カウンセ リング学会誌 41 (3)	出生前検査に対する認識と情報選択、意思決定プロセスを知るため、高年齢で出産した女性 147 名を対象に質問紙調査を行った。その結果、出生前検査に関する情報を 59%が得ており、主な情報源はインターネットであった。NIPTや羊水検査の受検が 22%で、最初から受検を希望しなかった者は 25%であった。(総ページ数:9 頁) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 村上京子、大下真美、佐世正勝、讃井裕美、伊藤美佐江、塩道敦子、沓脱小枝子、飯田加寿子
3 (学術論文) プラダーウィリー症候群の家族のある児と家族がへの乳児期の看護	共著	2017 年 3 月	日本遺伝看護学 会誌 15(2)57-67 2017	プラダーウィリー症候群のある児の乳児期に焦点を当て、母親の育児の体験やその中で心の動きを明らかにし、本疾患における乳児期の看護支援について考察した。結果、授乳に関する困難さが最も大きいことが明らかになった。授乳方法の実態について広く調査し支援方法を確立する必要性が示唆された。沓脱小枝子、辻野久美子、村上京子、飯田加寿子、遠藤由美子
4 (学会発表) 病院に勤務する看護職の 子ども虐待に対する認識	共同	2017 年 9 月	第 48 回日本看護 学会 -ヘルスプロモー ション-学術集会 (山口市)	看護職の子ども虐待に対する認識を明らかにする目的で質問紙調査を実施した。看護職は子ども虐待の早期発見の役割を担う立場にあるという認識は高く、日頃から虐待の早期発見に向けた観察や、保護者にも目を向けていた。担当部分:研究計画書立案、結果分析、考察、資料作成及び発表。飯田加寿子、池原倫、原口由佳、沓脱小枝子
5 (学会発表) 看護学生の子どものイメージ と影響要因	共同	2017 年 9 月	平成 29 年度 山口県小児保健 研究会 (山口大 学医学部)	看護学生 220 名を対象に、子どもとの接触経験が子どものイメージにどのように影響するのか明らかにする目的で調査を実施した。学生は、「活き活きとした」、「愛くるしい」イメージを抱いていた。共同研究につき本人担当部分抽出不可能:岡部 司、土井郁弥、沓脱小枝子、村上京子、飯田加寿子